

ごとう通信

第 228 号

令和元年12月1日

年齢のせい、年末が急に来るようになった気がします。もし皆さんも同じ感想を持っていたとすれば残暑が長く、秋っぽい季節が短くなったせいかもしれません、どうも季節感を変えなければならぬようですね。

さて、皆さんとは違い、僕たちにとって12月は新たなスタートの月なのです。12月1日がふれあい歯科ごとうの開業日であり、僕の誕生日でもあります。16年前の12月1日は雨でした。しっかり準備期間もあり、多くの皆さんの協力のもと、拔かりなく開業できたと思いましたが、もちろん不安もありました。い

ろんな商売をされている方ならわかると思いますが、最初のお客さん（患者さん）はいつたいどうやってうちを選んでくれるのか全く想像できません。今ではいっぱいになっている予約帳ですが、最初は1週間に3人とか5人とか。それも親戚だったり知人だったり。予約帳に名前がうまるのはいつかなあって思っていました。今ではいい思い出です。

ふれあい歯科ごとうの新しい1年がまた始まりますが、これまで通り、誠実に日々送っていかうと思えます。これからもよろしくお願いいたします。

自分の誕生日については…まったく興味がなくなっていました。ありがたいことにお祝いのメッセージやプレゼントをいただきましたが、

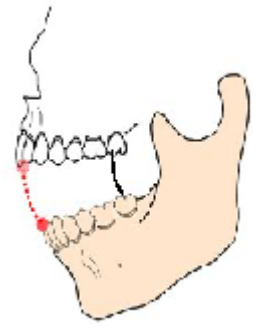
自分自身、おめでたい感が全くなくなってしまいました。しかも、昔から見ていたあの漫画のあの人と同じ年になるとは！

顎の開き方

まあ、どういっても歯科ですから、患者さんには口を開けてもらうことがほとんどです。大きく口が開く方やあまり開かない方まで様々です。でも、その大きさだけでなく、人間の口の開き方は本当に千差万別なんですよ。

皆さん、顎の位置はわかりますか？耳の穴の1センチほど前。指を





添えて口を開けると関節の動きが指に伝わりません。顎の動きは単純に回転運動では

なく、多少前に出ながら開くのですが、口を開くとき、関節が後ろにあるので、前歯の開いた距離よりも奥歯の開いた距離のほうが短くなりません。例えば、大きく口を開けて上下の前歯が5センチ開いたとしても奥歯同士の距離は3センチほどしか開きません。

口を開けるときには筋肉と顎の関節の柔軟性もあるのですが、骨の大きさ（長さ）が関与します。特に横から見た時の顎の関節から下方への長さ、関節から前方への長さ。わかりやすく言えば、顎の小さい人は、

大きい人より口が開きません。と言っても日常生活に困ることがなければ問題ありません。問題は…奥歯の歯科治療が難しくなるということですね。若い方は顔が小さく、本当にスライルのいい方が増えましたが、「奥歯の治療難しそうだなあ…」と思うのは職業病ですね。

東京オリンピック

いよいよですね。東京でオリンピックをやる！と立候補して落選。もう一回「コンパクトオリンピック」を合言葉に挑戦して「オモテナシ」で勝利。決定してしまえばコンパクトという言葉はどこに行ったやら。予算は4倍以上に膨れ上がったそうです。こういうところが日本のダメ

なところだなあと感じずにはいられません。

それでも、来年はオリンピックイヤー。たぶんテレビが一番いい観戦席だと思えますが、ライブ感を感じてみたいですね。今年のラグビーワールドカップ、全く興味なかったのでチケットの購入申し込みすらしませんでした。始めてみるともうらやましく思いました。

立派な国立競技場も完成しました。来年元旦のサッカーの天皇杯の決勝からスポーツ使用されるようです。テレビで競技場を見るのも楽しみです。いろいろあっても世界的なイベント。世界から多くの方たちが来てくれるのも単純にうれしいです。僕は違いますが、通勤に影響が出る方たちにとっては少し迷惑かもしれませんね。